

令和7年度 教科研修会 I に向けた授業の構想

保健体育科

1 保健体育科の研究テーマ

運動についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方

2 保健体育科として育成を目指す資質・能力の受け止め (研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体的な姿)

- ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている姿 (1, 2 学年、球技領域)
- ・提示された練習方法から、自己の課題に応じて、課題解決に適した練習方法を選んでいる姿 (1, 2 学年、球技領域)
- ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている姿 (3 学年、球技領域)

3 単元名・学年 「みんなでつないでアタックしよう (アタック・プレルボール)」・1年

4 単元の概要 (全 12 時間扱い 本時は第 6 時)

単元の学習問題

たくさん得点するためには、どのように連携すればよいのだろうか。

単元展開

時間	学習活動
第 1 時	<p>◆ゲームの紹介映像から、目指すプレイや基本的なルールを理解する</p> <p>・「する・みる・支える・知る」の観点からゲーム中の役割を確認する。</p> <p>【単元の学習問題】</p> <p>たくさん得点するためには、どのように連携すればよいのだろうか。</p> <p>・球技の課題を解決するための 3 つの視点(「ボール操作」、「ボールを持たないときの動き」、「意思決定」)を確認する。</p>
第 2 時 ～ 第 4 時	<p>◆セットしやすい場所にレシーブするための動きを考える</p> <p>・肘を伸ばして前腕に当て、コート中央付近に山なりに返す練習をする。(ボール操作)</p> <p>・ボールの 2 バウンド目の落下点に移動する練習をする。(ボールを持たないときの動き)</p>
第 5 時 第 6 時 【本時】	<p>◆アタックしやすいセットにするための動きを考える</p> <p>・真下に叩きつけて高くセットする練習をする。(ボール操作)</p> <p>・アタッカーの方に体を向けてセットする練習をする。(ボールを持たないときの動き)</p>
第 7 時 第 8 時	<p>◆得点につながるアタックにするための動きを考える</p> <p>・テイクバックをとって肩より高い位置から打ちこむ練習をする。(ボール操作)</p> <p>・セットの落下点に移動してアタックを打つ練習をする。(ボールを持たないときの動き)</p>
第 9 時 ～ 第 11 時	<p>◆相手の攻撃をレシーブするための動きを考える</p> <p>・相手のアタックに応じた準備姿勢をとる練習をする。</p> <p>・味方のレシーブに応じた役割行動を判断する練習をする。</p> <p>◆チームの課題を解決するための練習方法を選択し、練習をする</p>
第 12 時	<p>◆まとめの試合を行い、単元の学習について「ボール操作」、「ボールを持たないときの動き」、「意思決定」の視点から振り返る</p>

保健体育科学習指導案

令和7年5月14日(水) 5校時 体育館

授業学級 1年C組 (35名)

授業者 村山 慈

- 1 単元名 「みんなでつないでアタックしよう」(アタック・プレルボール)
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
アタックしやすいセットにするためにはどうすればよいか考える場面で、ボールの動きとアタッカーの位置に着目して、アタッカーの方に体を向けて真上に高くセットする練習をすることを通して、アタックを打ちやすい位置にボールをつなぐことができる。 【E(1)イ】
- 3 単元の学習問題：たくさん得点するためには、どのように連携すればよいだろうか。
- 4 本時の位置(全12時間中 第6時)
前時：セットがしやすい位置に着目して、フォーメーションを考えた。
次時：強いアタックをするためのアタッカーの動きについて考える。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 学習問題を設定し、学習課題を据える。	ア コートの前の方に向かって山なりにレシーブすることはできるようになってきたから、次はセットがうまくなりたい。 イ バウンドが低いと打ちにくいから、高い方がいいと思う。 ウ アタッカーの方に体を向けてセットした方がアタッカーの様子も確認できるし、アタックを打ちやすそうだ。 エ そのためには、アタッカーの位置とボールの動きを見ている必要がある。	・前時の学習を振り返り、アのような反応から学習問題を設定する。 学習問題：アタックしやすいセットにするためにはどうすればよいだろうか。 ・イやウのような反応を受けて、セットのポイントを整理する。 セットのポイント ○アタッカーの方に体を向ける ○真上に高く上げる ・エのような反応を受けて学習課題を据える。	8分
展開	2 チームごと練習をする。	オ 今まで体の向きを意識できていなかったから、まずはアタッカーのいる場所を見て、そちらに体を向けるように動こう。 カ 今回の動きだとセットが忙しくなってしまった。レシーブされたボールの動きを見ながら、体を向ける準備をしよう。 キ バウンドの位置が自分から遠くなるとアタッカーが打ちにくそうだから、もっと真下に叩きつけて真上に上げよう。 ク 今回のセットは高さもあってすごく打ちやすそうだ。試合でも同様にできるか試したい。	・練習方法を示範し、コート外を使う場合は、レシーブとセットの技能練習をするように促す。 ・練習の中で、セッターとアタッカーがセットについての意見や感想を伝えるように促す。 ・セットが安定しない生徒には、動き出すタイミングとセットの具体的な位置を共に考える。 ・練習後にセットのポイントについてチームごと振り返る場を設ける。	12分
展開	3 試合をする。	ケ セッターは、レシーブのときにはアタッカーの場所を見て、セットの準備を始めるとよさそうだ。 コ レシーブされたボールの動きを見ながら動き始めると早めに準備をすることができるので、落ち着いてセットができた。 サ 試合の中でもアタッカーが打ちやすそうな場面が増えてきた。 シ レシーブからセット、そしてアタックまでつながることが多くなってきて、うれしい。	・コート外の生徒が審判や記録、声掛けなどを行い、チームをサポートするように促す。 ・アタッカーの位置に応じて体の向きを変えたり、真上に高くセットできたりしている生徒の姿を全体に広める。 アタックを打ちやすい位置にボールをつないでいる。 (観察)	20分
終末	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	ス アタッカーの方に体を向けて真上に高く上げることを意識したら、前よりもうまくセットができて、アタックまでつながられた。 セ アタックまでスムーズにつながったから、次は強いアタックでもっと得点を決めたい。	・本時の学習課題について成果と課題を振り返り、全体で共有する場を設ける。 ・セのような反応を受けて、次時は、強いアタックを打つためのアタッカーの動きについて考えていくことを確認する。	10分